

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072000032		
法人名	株式会社 ファミリーケアシステム		
事業所名	ケアホーム家族の家 新里		
所在地	桐生市新里町新川2924-6 TEL0277-74-6435		
自己評価作成日	平成26年 10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より大切にしている、施設の理念である・入所者のありのままを受け入れる事・その人その人の個性、送ってきた人生を大切に事・施設に入所しても自宅で過ごしてきたように当たり前の生活を送っていただく事・地域とのつながりを大切にする事・ご利用者様、ご家族様が希望する限りご利用者様の人生の最後の瞬間まで寄り添って行く事。を心掛け日々の介護を提供させていただいています。具体的な事では、季節に合った場所や花、果物狩りに月に1度以上の外食、外出をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの理念を大切に、理念に沿って支援していくことで、安心してその人らしい日常が過ごせ、それが一人ひとりの幸せにつながる、と全職員が信念を持って利用者に関わっている。利用者の今の状況をそのまま受け入れ、今食べられるものを提供している。そうしたなか胃瘻を増設して退院し入居された方も、食事を経口摂取できるようになり、食べることを楽しんでいる。排泄については、座位を一人で保てない方でもトイレを使うことを大切に介助し、自然排泄ができています。一人ひとりの思いや個別の習慣を大切に、例えば、「薬を飲むのは絶対に食後30分なんだ」そんな利用者のこだわりをもスタッフみんなで見守り、叶えてくれる。看取りにも対応し、利用者の身体状況に変化があった時には家族と話し合いを持ち、利用者や家族にとって最善の方向を共に見つけ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念に基づき介護を行っている。カンファレンスを通し共通認識をもって介護している。	全職員は開設当初からの理念を介護の根底に置き、利用者に関わっている。理念に沿って支援していくことが利用者の幸せにつながるという信念を持ち、利用者のありのままを受け入れ状況に合わせて介護している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し道路清掃や集会に参加している。市で行っている運動会に参加している。	地域のお祭りに利用者に参加したり、文化祭には利用者の作品を出展したりしている。演奏やフラダンス等のボランティア訪問を受けたり、ホールに設置した大きなスクリーンで映画を上映し、隣接の施設利用者も一緒に観賞したりしている。住民から野菜の差し入れなどもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の散歩などで挨拶や日常会話を通して事業所の特色など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を参考にしたり地域で介護での相談を受けたり相談したりしている。地域行事などの情報をいただいている。	市の職員、自治会長、区長、及び職員が参加し、事業所報告や情報交換、介護相談の場となっている。会議を通して、文化祭への出展の手がかりとなった。家族の参加が無いことが課題となったが、面会時に会議の内容を伝え参加を呼びかけることで、1名の参加が得られた。	会議の目的を周知し、関心を持って頂けるよう工夫すると共に、参加し易い状況作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事や事故報告、生活保護入所者様の相談・介護申請などを行っている。	市には相談や事故報告や介護申請などに向向している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、夜間を除き施錠をしていない。	入居すると先ず拘束を解き、自由に歩くこと、普通の生活を送ることを支援している。玄関を施錠せず、自由に出入りが行われており、安全のために出入りをブザーで知らせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会や本などで職員各自学んでいる。カンファレンス等話し合い時に意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	強制はしていないが講習会や本などで職員各自学んでいる。カンファレンス等話し合い時に意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行いご利用者様、ご家族の希望をうかがい理解していただいたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の様子や態度表情からどんな思いなのかを読み取って、ご利用者様本位の介護の提供を心掛けている。面会に来られたご家族様には何でも言って下されるような雰囲気づくりを心掛けている。なじみの関係づくりに力おいている。	毎月の利用料を事業所での清算とし、家族に定期的に来園していただいている。また、面会時間を定めず、「都合の良い日時において下さい」と話し、来園時には家族と話をしている。利用者から聞きとった情報を会議で出し合い、外出先や外食先を決めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の運営会議にて意見交換を活発に行い業務に反映できている。	運営に関する7つの係(行事、レクリエーション、営繕、写真、消耗品、美化、新聞)を設け、全職員が何れかの係に所属している。全員が出席する運営会議では、各係から報告と予定が伝えられ、意見や提案を出し合い、翌月の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与を出せていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった研修や希望の研修に順次参加してもらうよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回のレベルアップ研修にて交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念に基づきご利用者様のありのままを受け入れ安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様、ご家族様が困っている事や求めている事を傾聴し事業所としてできる事を説明し話し合いを行いできる限り協力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営者、管理者、ケアマネが相談口となり、提供できるサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は仕事だけでなく生活を共にするものとして意識するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでもご家族の訪問を受け入れ少しでもご家族と共に過ごせる時間が持てるよう心掛けている。家族の負担にならないようイベントの参加は、家族にゆだねている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の人生を大事にし、親しんだ地域に外出したりしている。	「本人の送ってきた人生を大切にする」という理念を実践している。重度化した方や遠方からの利用者が多く、家族や親しんだ方との関係が疎遠になりがちなので、面会の機会をつくり、ホールで一緒に談笑できる居心地の良い環境を提供している。買い物や外食、ドライブ、ぶどう狩りやいちご狩りは、利用者の馴染みの場所を選んで出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者様と食事を一緒に取るように心掛け、気の合うご利用者様同士での外出の援助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要望があれば対応している。家族の希望があれば可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望が聞き出せるように努め意思疎通の困難な方はご家族からの情報を得てどのような暮らしで満足いただけるか検討している。市役所に相談している。	本人や家族から聞き取った情報を会議で話し合い、利用者の意向の把握に努めている。利用者と職員との相性を加味して担当を決め、利用者の表情や態度から気持ちを推察し、本人の思いを引き出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を基に職員が何度もカンファレンスを行い理解と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の生活のリズムや体調や行動の変化に気を配り申し送りやカンファレンスを通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いてご利用者様やご家族様の思いをケアに反映できるように会議やカンファレンス、モニタリングを行いケアプランを作成している。	日々の記録用紙に介護計画がプリントされており、計画に沿ったサービスの実行状況を毎日確認している。毎月のモニタリングは、介護記録に基づきケアマネージャーと担当職員とで行っている。カンファレンスで話し合われた意見を、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日2回の申し送りや個々の記録簿に毎日記載し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等必要に応じて支援を行っている。家族を含めた外出介助などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問等積極的に受け入れている。地域の運動会、文化祭に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族の希望を聞き医師に協力していただき、往診・受信など必要に応じて対応している。	利用者の希望に沿って、主治医を選択している。協力医の往診が2週間に1回あり、殆どの利用者が受診している。他科及び認知症専門医の受診については、必要時に主治医の紹介で外来受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置をし24時間対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備を備えた医療機関と契約しており協力医として定期的にご利用者様の健康状態を診ていただいている緊急時にも対応していただき連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、施設職員で話し合いをし終末期に向けたご利用者様、ご家族様の希望を明確にした看取り同意書を作成し、実行している。家族の思いや、気持ちの変化にも常に注意をして対応している。	入居時に説明し、希望を確認している。その後、利用者の段階を見極め家族と話し合い、同意書の見直しを行っている。看護師が常勤し、協力医2名が往診している。看取りの期間は家族の気持ちに寄り添うよう努めると共に、家族が利用者の居室に宿泊することも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習等に定期的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署立ち合いの避難訓練と施設のみの避難訓練を実施している。	年に2回、想定を変えて実施している。消火器訓練には、利用者も参加している。非常口となる出口が石垣の上であり、避難には危険を伴い、マンパワーが必要な状況となっている。	避難訓練のマニュアルに近隣の協力があることが望ましい。また、安全に避難するために、避難経路の整備について検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の誇り、尊厳を損なわないような対応と親しみと尊厳をもった言葉づかいを心掛けている。相部屋にはパーテーションを設けている。	利用者の姓に「さん」付けで呼び、職員と利用者には極自然な相互関係が成り立っている。相性の良い職員が対応するよう努め、個々の利用者の生活歴に基づいたプライバシーと、人としての尊厳を大切に生活を送れるよう留意して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限りご利用者様の希望が実現できるよう心掛けている。月1回の外出と外出などで実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操の時間やレクリエーションの時間は作らず、その日の様子で1人1人に合った対応に努めている。日々の生活スタイルに合った対応の把握に努めている。強制はしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、それぞれの整髪料使用し洋服も声掛けにて選択していただいている。おおよそ2か月に1回移動美容室を利用し希望のヘアスタイルにカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様のレベルに合ったお手伝いをいただいている。芋の皮むきや盛り付け配膳など。旬のものや行事に合ったものを提供している。	調理専門の職員を配置し、食事内容や形態はできる限り本人の希望に沿い、全て手作りの料理を提供している。食べたい物を美味しく食べることを支援し、胃瘻の方も食事が摂取できるようになった。また、食欲のない方には好きなパンを追加するなどして、食事量の維持に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った量、バランスを把握に努めている。水分量も確保できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできる限り使用せず。日中は全員トイレでの排泄を実践している。	座ることで排泄ができると考え、トイレで排泄することを大切にしている。半身麻痺の方や座位を保てない方には、職員2名体制で介助し、トイレでの排泄を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、内服、運動等で便秘の予防に努め、排泄のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方の入浴はできていないが、日中、可能な限りご利用者の希望の湯加減や順番をていきようしている。	職員と1対1で1日おきに入浴している。機械浴槽は使っておらず、職員の介助で入浴が楽しめるよう努めている。長期入居の方が多く状態が重度化しており、入浴による急変時の医療対応を優先して入浴時間を昼間に設定している。軽介助の方は、夕方の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調に気を付け日中は活動を促し、生活にリズムをつけ夜間に自然な睡眠をとっていただくよう努めているが、どうしても疲れてしまうご利用者には1時間ていどベッドで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスを通して各職員がご利用者の内服の理解に努め、看護師が服薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を基に情報を収集し各ご利用者に楽しみが持てるように散歩や音楽鑑賞、映画鑑賞やトランプ、花札、麻雀などを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の体調や天気に合わせて買い物やドライブ、家族の希望があれば一緒に参加していただく季節行事の見学など積極的に外出援助を行っている。	果物狩りや外食が計画され、日常的に外出を楽しんでいる。家にこもらない生活をあたり前の暮らしと考え、散歩や買い物等個別の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、ご自身で金銭管理をしているご利用者様もいる。買い物などで自分の好きなものが買えるようにさりげなく支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをなさっているご利用者様は現在いないが、ご家族様の了承を得て職員が間に入り電話させていただく事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節を感じる花や貼り絵を展示したり、外出時・イベント時の写真を展示している。	ホールにプロジェクターを設置して、大きなスクリーンでテレビや映画を鑑賞している。皆で作った作品や花が飾られ、壁面にはイベント時の写真が掲示されている。プロジェクターから離れた落ち着いたスペースには大きなソファが置かれ、横になったり休憩したりしている。鉢植えの観葉植物が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に独りでいられる場所はないが気の合うご利用者様同士と一緒に過ごせるよう席次などに気を付けている。施設の構造上、共有スペースを中心に各ご利用者様の居室があるので独りになりたい方は居室に入り過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のなじみの家具や写真等をご自宅より積極的に持ってきていただく事で居心地の良い居室を提供できるよう努めている。	利用者が持参したタンスやテレビが配置され、家族写真やポスター、絵や作品などが飾られ、一人ひとりの個性に合った温かな居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は見渡せるようになっており安全の確保に努め居室やトイレ厨房等わかりやすくなっている。		